

2020年11月

会社紹介資料

株式会社 世界市場

Strictly Confidential

企業概要

“農産物輸出を生産者の収益機会に”

企業名 : 株式会社世界市場 (Global Ichiba Corporation)

設立 : 2015年9月17日

所在地 : 東京都品川区大井1丁目47-1 NTビル8階

代表者 : 村田 卓弥 (代表取締役 CEO)

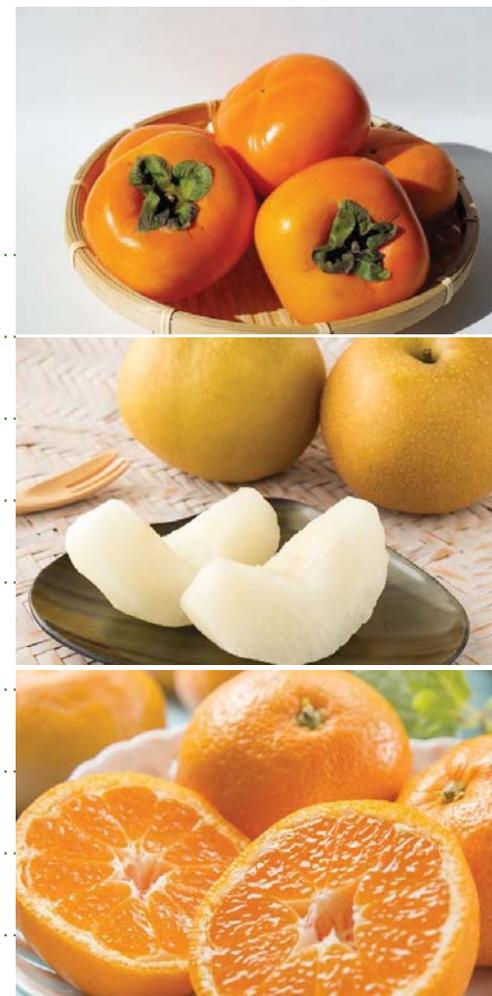
資本金 : 189,999,900 円 (2020年11月1日時点)

主要株主 : 株式会社農業総合研究所、フューチャーインベストメント株式会社、
他 金融系ベンチャーキャピタル等

事業内容 : 日本産青果物 (野菜・果実) 等の輸出

子会社 : NIPPON ICHIBA Hong Kong Ltd., (香港)

従業員数 : 18名 (2020年11月1日時点/契約社員・子会社含む)





株式会社世界市場が
目指しているもの

世界市場は、環太平洋地域を日本の農産物商圏にすることを目指しています

環太平洋での青果物の貿易は推計約2兆円+¹規模の市場



Note) 1. 2008年時点。「日本農業研究所報告『農業研究』第25号”アジア太平洋地域の食料貿易構造の変化（大賀圭治）”、26号”畜産物、野菜、果実の国際貿易構造の変化（大賀圭治）”を基に推計。日本・中国・韓国・ASEAN・豪州・NZ・US・加州の「畜産物・野菜・果実等」の貿易額は、約70B US\$（25号）。「畜産物・野菜・果実等」の中で、「野菜類・果実、ナッツ類」の占める割合が、約33%（25号）。双方から野菜・果実類（ナッツ含）の市場規模は約2兆円と試算。2. 入出港時の港湾の留置き期間を含む目安。実際の輸送日数は航路・仕出港・仕向港・気象条件等による

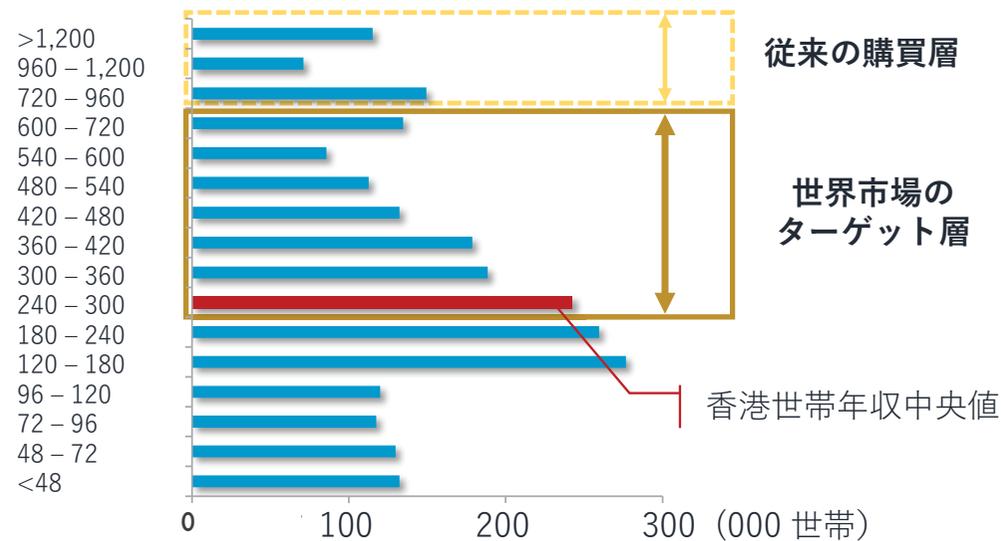
基本方針は、現地販売価格の高騰を抑制し中間層向けに大量流通

事業展開の基本方針

富裕層向けの少量流通ではなく、中間層向けの大量流通

例：香港世帯収入分布と世帯数

世帯収入 (000 HKD/年)



空輸より海上輸送＋一気通貫のサプライチェーン

輸出商品のコスト削減方法

価格高騰の原因	現状	世界市場方針
商流 (中間マージン)	多くの中間業者が介在	調達から販売まで自社で実施
輸送手段 (ロジコスト)	空輸が中心 (海上輸送コストの約3-5倍)	原則、海上輸送

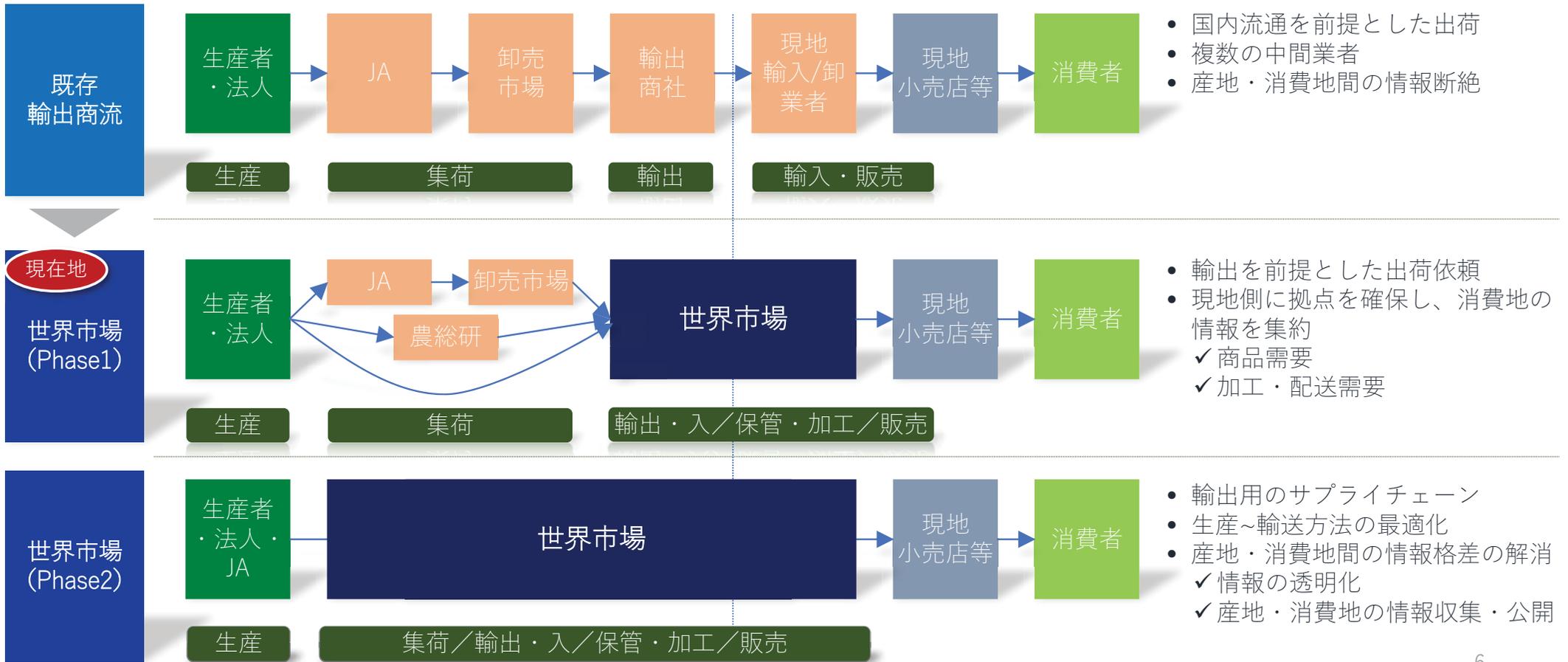
環太平洋の農産物輸出国も主力は海上輸送

- ✓ USA (柑橘、チェリー他) / AUS (柑橘、他)
- ✓ NZ (キウイ、レモン他) / PHP (バナナ、パイナップル、他)



生産者・海外消費者の両端を繋ぐサプライチェーン

国内調達から現地販売までを一括して実施



産地連携の例 ~地方港の活用~

サプライチェーンの最適化の中で地方港も積極活用

地方港の利用推進

- **収穫~コンテナ詰めまでの、期間・コスト・リスクを最小化**
 - ✓ 国内輸送費の削減（但し、case by case）
 - ✓ 国内輸送期間の短縮
 - ✓ “one of them” の荷扱いを回避

- **商品保管体制の混乱要素を削減**
 - ✓ 国内輸送業者の輸送環境の変動
 - ✓ 荷渡し時の、商品扱い方法・環境の変動
 - ✓ 交通事情による遅延・ルート変更

- **利用実績**（コンテナ単位で産地から輸出した事例）
 - ✓ 苫小牧港（北海道産 南瓜・ゆり根）
 - ✓ 酒田港（山形県産 柿）
 - ✓ 清水港（静岡県産 みかん）
 - ✓ 神戸港（和歌山県産 柿）

清水港利用時の新聞報道



バンニングされた香港向けミカン

世界市場

ミカン 500スクー輸出

清水港から香港向け

【静岡】香港向けを中出ししている商社の世界市場に日本産の農産物を輸一場はこのほど、同社として初めて清水港を利用し、ミカンを輸出した。先月26日に清水港で静岡県産の青島ミカンを500スクーを20リリーフアーコンテナ1本にバンニング

（コンテナ仕立て。30日に船積み、1月5日に香港に到着した。同社は従来、西日本を中心にした農産品の輸出比率が高かったが、今後は東日本の産品の輸出にも力を入れていく意向。清水港を輸出拠点としても活用したい考えもある。

清水港は2018年2月、国土交通省から農水産物輸出促進の拠点として認定を受け、冷凍プラグの増設などの整備が行われている。今回のような実績を積み重ねることさらに農産品の取り扱い拡大を狙う。

世界市場の担当者は「ミカンだけでなく静岡県の農産品には非常に魅力を感じている。今後も輸出拡大に取り組みたい」と話した。

新聞報道 (2019年11月)

日本経済新聞

記事利用について

山形の庄内柿、酒田港から香港へ初輸出

2019/11/20 17:48 | 日本経済新聞 電子版

山形県の庄内柿が酒田港（山形県酒田市）から香港へ輸出され、11月中旬に現地で販売が始まる。酒田市袖浦農業協同組合（JAそでうら）が、農産物流通を手掛ける世界市場（東京・品川）を通じて輸出した。酒田港を使った果物の輸出は初めて。輸送中の船内で柿の渋を抜く脱渋を複数のやり方で試み、2020年からの本格的な輸出につなげる。

18日まで3.5トンを出荷し、約10日間の輸送期間を経て現地の日系スーパーなどで順次販売する。柿は出荷時に炭酸ガスで渋を抜くが生産者の負担が重かった。今回はアルコールや脱酸素剤を使う10種類程度の脱渋をコンテナ内で実施し、負担軽減にもつなげる。

世界市場とつながりがある酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）がJAIに出荷を働きかけて実現した。山形県は東日本有数の柿の生産地で、地元の酒田港を使って輸送コストを削減し、20年は輸出量を25トンに増やしたい考え。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

令和元年11月13日 山形新聞【総合】（2）

庄内柿 香港に3.5トン

JAそでうら 酒田港から初輸出



香港に輸出する庄内柿をトラックに積み込んだ。＝酒田市・JAそでうら選果場

JAそでうら（酒田市、五十嵐良弥組合）は、初めて酒田港から香港に庄内柿3.5トンを出荷する。酒田市によると、酒田港から庄内産果物がトン単位で輸出されるのも初めてで、来年は25トンまで拡大させたい考え。第1便は11日に出港しており、17日に出港予定の第2便に向けて17日、トラックへの積み込みが行われた。

青果物の海外輸出を手掛ける企業「世界市場」（東京）を経由し、香港の大手スーパーに販売する。室温0度の冷蔵コンテナで脱渋しながら輸送するため、脱渋後の仕分けや箱詰めの手間がなく農家の負担軽減が図れる。来年の本格出荷に向けて複数の脱渋条件をテストする。同JAの庄内柿出荷量は15年間で半減しており昨年は188トン。今年度は200トンを見込む。

船便は輸送コストが安く、現地での販売価格を抑えられる。世界市場は、産地を出発する所から輸送管理することで品質が高く、かつ競争力のある価格で庄内柿をブランド化、差別化できるとしている。

これに先立ち8、9月に

同JAのメロン1500個（約2・4トン）を香港に輸出した。要す材料用として市場で評価されたという。同社とJAそでうらは、市産業振興まちづくりセンター（サンロク）がマッチングした。（坂本由美子）

事業展開予定地域

これまで香港中心。今後、台湾・シンガポール、その他アジア各国＋環太平洋へ展開。

国名	GDP/capita (USD)	人口 (million)	検疫条件				政治リスク	距離
			果実	果菜	葉菜	根菜		
香港	46,193	7.4	◎	◎	◎	◎	低	近
台湾	22,000	23.6	Q (一部×)	Q (一部×)	Q	Q	低	近
シンガポール	57,714	5.6	◎	◎	◎	◎	低	中
マレーシア	9,951	31.6	◎	◎	◎	◎	低	中
タイ	6,595	69.0	Q	Q (一部×)	Q	Q	?	中
ベトナム	2,342	95.5	△ (梨/りんごPQ)	△	△	△	低	中
韓国	29,743	23.5	Q (一部×)	Q (一部×)	Q	Q	中	近
中国	8,827	1,386.4	△ (梨/りんごPQ)	△	△	△	中	近
インドネシア	3,847	264.0	Q	Q	Q	Q	?	中

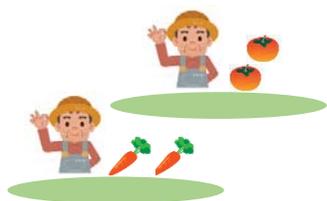
出典：世界銀行統計、農林水産省資料

凡例：◎：植物検疫証明書なしで輸出可、Q：植物検疫証明書を添付すれば輸出可、△：輸出相手国の検疫条件が未設定のため輸出できないか不明、×：相手国が輸入を原則禁止

サプライチェーン作りに必要な設備投資

主な資金需要は、産地・輸出拠点・海外輸出先国の3拠点

生産者



- ・栽培履歴収集
- ・出荷・梱包拠点

集荷/選果/予冷



- ・集荷拠点
- ・選果機
- ・冷蔵施設

国内輸送



- ・鮮度保持資機材

輸出拠点



- ・集荷・梱包施設
- ・冷蔵施設

海上輸送



- ・鮮度保持資機材

現地法人



- ・荷受・荷捌施設
- ・加工施設
- ・冷蔵施設
- ・営業体制

